



令和3年5月28日
小田原市立酒匂幼稚園
園長 向笠 弘子

子どもたちの元気な声とカエルの鳴き声が輪唱のように園庭に響いています。子どもたちが元気に遊んでいる時にはカエルは身を潜め、保育室に入ると大きく聞こえてくるカエルの合唱。例年より早く梅雨入りすることを知っているかのようです。

最初のうちは年少さんと関わることにハードルを越えるような感覚をもっていた年長さん。遊びのルールや園の生活に必要なことを年少さんに教える姿に、見えない壁が少しずつ低くなっていることを感じます。50人の子どもたちが自然に関わり認め合い高め合って育っていくことを願う今日この頃です。

学びの芽〜虫捕りの活動から〜

園庭では、虫捕り網を持った子ども毎日のように見られます。捕まいたい生き物が、いつしかチョウからカエルとカタツムリに変わってきています。虫捕りという体験を通して、季節の移り変わりを感じる経験は、子どもの心と記憶に残り、小学校以降の教育の中で、季節の変化や生き物の生態ということに整理されていくことでしょう。幼児期に直接的な体験をして心と体をたくさん動かすことは、小学校以降の学びの芽になります。

体力をつけるために…

コロナ禍で運動不足になり体力が落ちているのは、大人ばかりではありません。子どもも同じです。5月17日に、SFCの加藤智久コーチをお招きして、年長組のサッカー教室を行いました。キラキラと瞳を輝かせボールを追いかける子どもたち。サッカー教室が終わりに近づき、チーム対抗でゴールに入れたボールの数を競っている時のこと。思い切りボールを追いかける子、少し疲れゴール前に行きボールが入らないように防ぐ子、少し歩いては再び走り出す子。やりたい気持ちはあるけれども、体が動かない様子が見られました。少し体力が落ちているかなと感じたスクールボランティアコーディネーターの方が、コーチに尋ねました。「体力をつけるためには、どのようなことをしたらよいでしょうか？」コーチの答えは『縄跳び』。手軽にでき場所も取らない利点もあるそうです。そして、親子で取り組むと、子どももより意欲的に取り組めるとのこと。跳べる子も跳べない子も、『継続は力なり』です。家庭でもチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。ちなみに、SFCの子どもたちの中で毎日練習をしている子は、ボクサーの早回しのような跳び方で軽々3000回跳ぶそうです！

幼稚園関係者委員会より

幼稚園関係者委員会が書面で開催されました。関係者委員の方から、今年度の経営計画（子どもたちをどのような取組を通して育てていくかという計画）についてご意見をいただきました。

- 野菜の栽培、サッカー教室、音楽鑑賞、読み聞かせなどが、地域ボランティアと連携しながら、食育、運動体験、情緒の豊かさの向上へと結びつく計画だと思えます。
- 人との関わりは子どもたちの成長にとって欠かせないことです。計画通り実施できることを願っています。
- 幼稚園だからこそできる豊かな経験が未来ある子どもたちの心の中にいつまでも輝き続けてくれることと思えます。
- おだわらっ子の約束を保護者を巻き込んで次の約束として取り組まれていることが素晴らしいと思えました。他にも園を応援してくださる温かいご意見をいただきました。

さくら組6月の約束

「ありがとう」「ごめんなさい」を言います

ほし組6月の約束

「ありがとう」「ごめんなさい」を言います